

野球部、苦しみながらも初戦突破！

第103回全国高校野球選手権愛知大会にシード校として出場した野球部は、7月18日（日）の3回戦が初戦となり、豊田高校と対戦した。

2年生エース神谷（東浦中）はストレートと変化球の制球が冴え、7回まで相手打線をノーヒット、死球1つを与えただけの完璧なピッチングであった。だが、攻撃陣は7回までに5安打、3四死球とチャンスを作りながらもあと1本が出ず、0対0のまま8回を迎えた。表の豊田高校の攻撃で初ヒットが生まれると、エラーも絡み先制点を奪われた。何とかしたい8回裏の攻撃も2死となったが、榊原旭（豊浜中）がこの日3本目のヒットで出塁すると、嶽本（河和中）が続き、牛田（半田中）が左中間に逆転の二塁打を放った。さらに夏目（野間中）も三遊間を破るヒットでたたみかけ、2点のリードをつけた。9回の表の相手の攻撃は3者凡退で退け勝利し、4回戦に駒を進めることができた。

シード校としてのプレッシャーはあったと思うが、先制されても慌てず引っ繰り返すことができたのはこのチームの強さであり、今回さらにいい経験を積んだと思われる。蜷川喜信先生、伊藤和宏先生、蟹江吉弘先生の歴代校長や元野球部長の二村典和先生も応援に来ていただき、東浦高校への思い出を改めて感じた。

各チーム音楽を流しての応援ということであったが、機材の搬入から設置まで母会に助けていただいた。



応援団（部員）



スコアボード（試合終了時）